

## 第2部 食環境プレゼンテーション

### 冒頭の挨拶

平素は食環境のアダプト・プログラムの推進事業に大変ご協力をいただきまして、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

本日は、毎年全国の自治体の皆様にご協力をいただいておりますアンケートの結果、並びに各全国の自治体からお寄せいただいた情報に基づきまして、アダプト・プログラムの国内概況、並びにトピックスにつきましてご報告を申し上げます。

### 導入プログラム数の推移

まず、導入プログラム数の推移ですが、国内のアダプト・プログラムは1998年に生まれまして、3年後の2001年には全国に普及しました。その後順調に推移し、今年末では380程度になるものと見込んでおります。なお、これは人口2万人以上の自治体の約3割強で導入をされていることとなります。プログラム数は、平成の大合併ということもございまして、そういった影響からここ何年かは若干従来の伸びから鈍化をしておりますが、プラスの傾向は続いております。来年は400を超える見込んでおります。



毎年各地でいろいろな環境フェア、環境イベントが開催されます。そういった折にその開催地の周辺の導入地につきまして、食環協からアダプト・プログラムのご紹介を兼ねてお伺いをして、ご紹介をしているという状況です。10月に山形県、11月は岩手県、両県でイベントがあり、両県の各市をご訪問しました。

### 活動団体数の推移

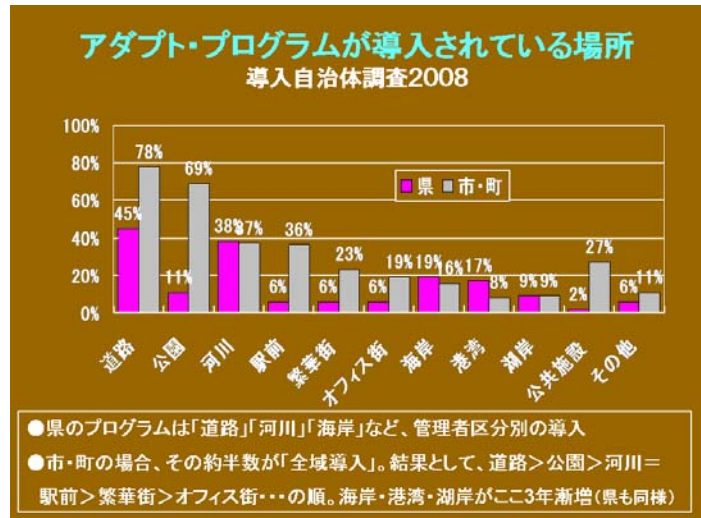
今年末の見込みでは1万5,000団体程度と見込んでおります。2001年との比較では、この7年間で約12倍の拡大をしたということでございます。なお、このグラフには載っておりませんが、活動団体に登録されている人数は、昨年が約70万人、今年末では80万人程度の見込みです。全国の社会福祉協議会が、毎年のボランティア活動の年報を発表しておりますが、2005年の最新データでは活動団体が12万4,000、人員では740万人となっております。アダプト・プログラムは、05年では8,500団体、約50万人が参加されていると推定しています。これで



比較しますと、ボランティア全体の7%前後を占めます。ただ、全国のボランティアの最新のデータはつかんでおりませんが、現時点では7%以上になっているのではないかと推測しております。

## プログラム導入場所

基本的な傾向としては、前年と大きな変化はありません。都道府県ベースでは、道路・河川、あるいは海岸のような管理者別の導入がされています。一方、市区町村については、半数近くが全域導入しており、道路・公園・河川・駅前なども同じような順で、前年と大きな変化はございませんでした。ただ、県と市とも、海岸・港湾・湖岸などの数字が年々徐々に増加している傾向です。



## 参加団体の内訳

昨年との比較の中で、大きなポイントは、地元企業の構成比が高くなっている点です。これは後ほど各自治体の声をご紹介します中で出てくると思いますが、企業のCSR活動、いわゆる社会的責任の意識が非常に強まっているという声を多数お聞きしていますので、そのことが数字につながっていると思います。それから、環境団体とその他の数字も大きく変化・変動しておりますが、詳細については検証する必要があるかと思えます。



## 活動内容

これも大きな変化はございません。地域が必要とする広範な美化活動が組み入れられているということでございます。いずれにしても、ごみ拾いから始まって、粗大ごみに至るまで、各項目とも2~3ポイントずつ上昇しておりますので、こうした活動がますます広範化をしているということが伺えます。



## アダプト・プログラム維持・活性化の施策

アンケートでは、広報活動、あるいはイベントの開催、マスコミの活用など、いくつかの分類の中で、細かい施策の実施状況をお伺いしております。多様な取り組みをされておりますが、ホームページ、あるいは広報誌が圧倒的に高く、他はそれほど大きなものではないという状況です。この傾向も従来と大きく変化はしていません。

グラフで紹介していますが、現場訪問が2割以上になっています。これは予算の制約の中で皆様ご担当者の方が、非常にご苦勞、ご努力されているということが伺えます。

ご参考までにアダプト・プログラム研究会メンバーのニューズレターの事例を紹介しています。後ほどアダプト・プログラム研究会については説明しますが、活動のフィードバック、制度などのPRのためのものです。お手元の資料の中に、各自治体のURLを掲載しております。

## 導入の成果

導入の成果ですが、美化の実効、美化の啓発等々、非常に多様な成果が認められています。県と市町村とも、同じようなパターンをしております。この中で、底辺拡大が、団体数の増加を受けてややプラス傾向にあります。

アンケートの中でお答えいただいた各自治体の声をご紹介させていただきます。まず参加団体の増加。特に企業、企業グループの増加が多いという意見が多数寄せられております。それから、新地域への浸透、あるいは合併地域への浸透ということで、これは平成の大合併で新地域が増えたとい

うことへの対応の部分です。また、単に清掃、美化活動にとどまらずに、まちづくりのプラットフォームにも好転していくという報告も寄せられております。そのほか、自主的な活動、アダプト活動以外に県主催の一斉清掃、他の協働事業への自主的な参加も見られるという意見がありました。

## アダプト・プログラムの維持・活性化施策

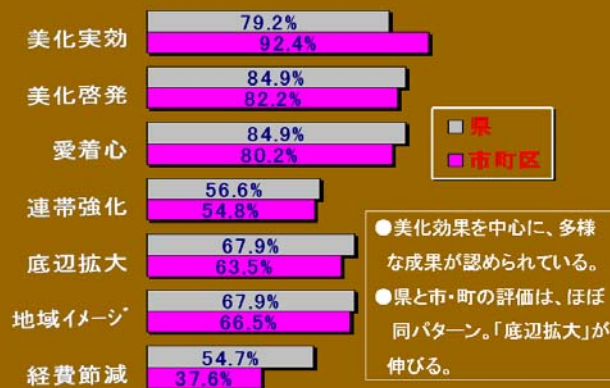
ホームページ	→ 68.9%	タウン誌	2.4%
広報誌	↘ 55.6%	表彰	→ 8.4%
アダプト情報誌	↘ 4.8%	感謝状	5.2%
交流会	↘ 15.6%	認定状	→ 14.8%
勉強会・講習会	8.8%	成果フィードバック	↘ 2.8%
年度総会	→ 5.2%	協議会設置	2.4%
新聞	↘ 18.4%	アット実施	12.8%
テレビ	↘ 11.2%	現場訪問	→ 23.6%
ラジオ	8.4%	支援充実	→ 12.0%

## アダプト・プログラムの維持・活性化策

- ニューズレター等による活動成果のフィードバック、制度PR (アダプト・プログラム研究会)
  - ・大阪府 「地域協働いきいき通信」
  - ・広島県 アダプト通信
  - ・室蘭市 まち「ピカ」だより
  - ・相模原市 パートナースHIPニュース
  - ・磐田市 まち美化新聞
  - ・岐阜市 アダプトだより
  - ・岡山市 ニュースレター (岡山市環境パートナーシップ事業全体)
  - ・久留米市 クリーンパートナー・ニュースレター
  - ・札幌市中央区、狭山市、鎌倉市 ホームページ

## アダプト・プログラムの導入成果

導入自治体調査2008



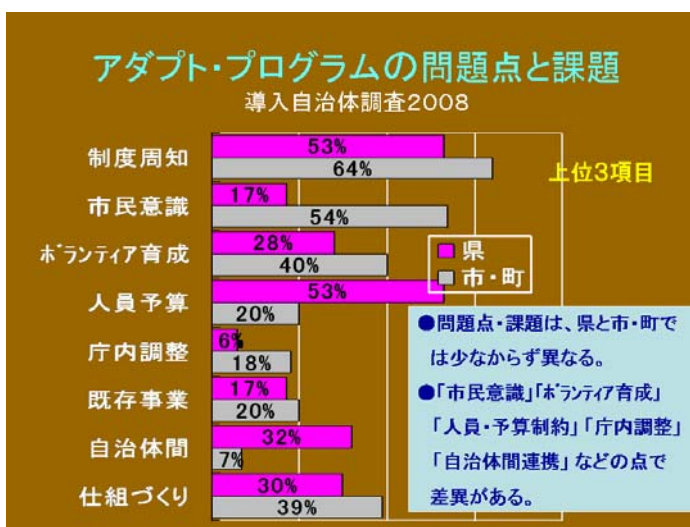


特定の例えば5月30日はアダプトの日と定め、自治体と参加団体とが活動をする中で、相互の関係が良好化したというケースの報告がありました。活動地域が観光の名所、あるいは美化のモデルになったといううれしい報告も受けました。

アダプト活動を支援し、市民・民間団体の協働を促進する中間的なNPO法人の機能強化を図ることにより、自治体と市民団体相互の交流といったことが非常にうまくいっているというご報告もあります。合同のアダプト活動の展開があったということや、学校の児童、生徒への呼び掛け、美化意識の向上、学校の取り組みに適應した活動もなされているというケース、地域の防災力につながったという報告や、マスコミ関係でも大きくこういった活動を取り上げるということがあったという報告もありました。

## 問題点・課題

次に問題点と課題について。これは制度周知から仕組みづくりまで何項目かにわたって分類したものであるアンケートの結果です。制度の周知、市民意識の向上、ボランティア育成、この3項目につきましては、従来と変わらず上位を占め、大きな悩みとなっています。県と市町村によりましては、多少、差異があります。今回のアンケートでは、市区町村では、昨年と比べて大きな変化はありませんが、都道府県の場合には、特に人員予算の制約、これが10ポイントほど伸びております。それから、仕組みづくりの比重も20%から30%へ増加しています。



各項目の特筆事項について。まず制度の周知・PRですが、いろいろ努力・工夫はしているけれども知名度が上がってこないという悩み、参加団体数がなかなか伸びないという悩み、中には、サインボードをせっかく付けたのに、その意味が理解されていないという例もありました。

次に、意識面、あるいはボランティアの育成については、活動を継続して行うためにはどうしたらいいのだろうか、非常にご苦労の跡が伺えます。リーダーがいない、人材が不足しているという報告もあります。その他、活動のマンネリ化、高齢化・期間経過とともに、参加団体が減ってきてしまったという報告もあります。

高齢化が進展する一方で、若手の参加が少ないということと、参加団体の増加は大変プラスではあるが、逆に交流の部分が少なくなってきたというプラスマイナス両面についての意見もありました。参加団体と人員、あるいは予算の制約、庁内間・自治体間の連携の問題も悩みとして挙げられておりました。参加の手続きの簡素化、仕組みづくりについては、文書で合意書等を取り交わすということに対する抵抗感があるという悩みもありました。

## スポーツチームとの締結

これから今年のトピックスを4点ほどご紹介します。まず1点目は、昨年このシンポジウムにご登壇いただきました静岡県磐田市さんの事例です。スポーツチームとの合意が契機となりまして、大幅な参加者の増加や、プログラムの知名度が上がったという事例です。

磐田市はまち「美化パートナー制度」を運用されておりますが、これにサッカーJ1チームのジュビロ磐田が今年の5月に調印したことが契機となり、知名度のアップ、参加団体が大きく膨らみました。一気に1,000名以上の増加があったと聞いております。

その後、いろいろなご努力もあり、現在では昨年の約5倍近い登録人員があると聞いております。8月3日には、ホームタウン・クリーンアップ・ウォーキングということで、グラウンドから市内のある地点間で、清掃活動や打ち水作戦、選手との交流など1日を有意義に過ごしたということです。今後もこういった活動を継続される予定です。

**アダプト・プログラム・トピックス**  
 <スポーツチームとの合意:磐田市>



2008年8月3日  
 「ホームタウン・クリーンナップ  
 ウォーキング」  
 ・清掃活動、打ち水作戦  
 ・ジュビロ選手のサッカー指導





## 土地改良区での導入

岩手県では土地改良区によるアダプト（同県では「アドプト」）活動が盛んに行われています。土地改良区は、土地改良法に基づいて農地の改良・保全の事業を行うために設立された法人を言い、主に農家の方が中心となっています。全国で5～6,000の法人があるそうです。「水土里ネット」の愛称で運営されています。

岩手県では、「アドプト・プログラム協定」という名称で、県の農林水産部農村建設課が窓口になっています。活動団体の募集は土地改良区が中心であり、内容は、通常のアダプト活動と全く同じです。現在、約70団体が締結しており、125団体との締結を目指しています。基本的なサインボードは、いずれもこのような様式となっております。

**アダプト・プログラム・トピックス**  
 <土地改良区のアダプト・プログラム:岩手県>



(左)盛岡市鹿妻穴堰土地改良区の活動状況



(右)盛岡市玉山土地改良区のサインボード

## アダプト・プログラム研究会の発足

食環協では、1998年からアダプト・プログラムに取り組んできましたが、明らかになってきた問題点・課題に対応するため、現在11自治体の方にお集まりいただきまして、意見交換、研究などを行い、より効果的なプログラムの運用方法について検討を進めるために

**アダプト・プログラム・トピックス**  
 <アダプト・プログラム研究会>



第1回開催  
 2008年9月3日(水)



討議事項  
 会の目的・運営方法、  
 研究会メンバーの制度  
 の現状、課題 など

本研究会を発足しました。この研究会で得られた成果は、皆様方に情報発信し、活用していただければ幸いです。また、プログラムの知名度の向上、普及につながればと考えています。今後は年に2~3回の会議と、情報交換を継続し、少しでも自治体にとって有益な情報を提供したいと考えております。メンバーは、現在11ですが、今後他の自治体、市民団体等を含め、参加募集を検討中です。

## 洞爺湖サミットでの取組み

7月に開催された北海道洞爺湖サミットに関連した取組みを紹介します。まず、「まち美化シンポジウム」です。サミットに来られる方を気持ち良い形でお迎えしたいという主旨で、北海道庁が中心となって立ち上げた「おもてなしクリーンアップ実行委員会」と、食環協との共催で、5月に道庁にて開催しました。アダプト・シンポジウムは東京で定期的に開催していますが、東京以外の地区での開催も計画しております。今日ご出席の皆様方の中で、開催を希望する自治体がありましたら、ご相談をいただければと思っております。

それから、4月に札幌市大通り公園とその周辺で、一斉クリーンアップ活動を行いました。これは実行委員会とJTと食環協の3者共催で開催しました。この時は協会のメンバーが史上最多の450名ほどが参加しました。

せっかくの機会ですので、最後に1点お願いがございます。私どものホームページのトップページに、今年新たにプログラムを導入された場合、それから、今現在活動中の団体様向けに、現在活動をしている中で、成功例等々を入力いただけるサイトを立ち上げました。奮って入力いただきますようお願いいたします。

### アダプト・プログラム・ピックアップ ＜北海道洞爺湖サミットへの取組み＞

**「まち美化シンポジウム」**

- 期日 2008年5月27日(火)
- 会場 北海道庁別館 地下大会議室
- 主催(共催)
  - ・北海道洞爺湖サミット・おもてなしクリーンアップ運動実行委員会
  - ・食環協
- 内容
  - 基調講演 村田佳寿子氏
  - 事例紹介 札幌市中央区・西区 室蘭市、洞爺湖町

### 食環協からお知らせ ＜HPへプログラムの新規導入、活動状況入力＞

以上で終了させていただきます。ご静聴ありがとうございました。